

柏崎市軽井川の新潟産業大は4月から、人工知能（AI）を活用する人材を育成するためのプログラムを導入した。初心者にも対応し、オンライン授業を通して基礎知識を学んだり、アプリを作ったりする講座で、AIを社会で活用できる技術の習得を目指す。

新潟産業大 取り組み多彩

AI学び社会で活用

人材育成プログラム導入

基礎知識やアプリ作成

プログラムは関西学院大（兵庫県）と日本IBM（東京都）が開発した。産大によると、県内大学では初めての導入。
関学大では2019年から対面授業で、AIに対する理解を深める講義を行っている。AIを活用する人材不足が見込まれることや、企業の社員向けプログラムのニーズが高かったことから、オンライン化して外部にも提供することにした。
21年7月にプログラムの提供を始めると、メーカーや金融業など約100社が導入した。産大は、多くの企業が取り入れているプログラムを学生時代に学べば、就職活動に生かせるほか、進学を希望する高校生へのPRになるため導入を

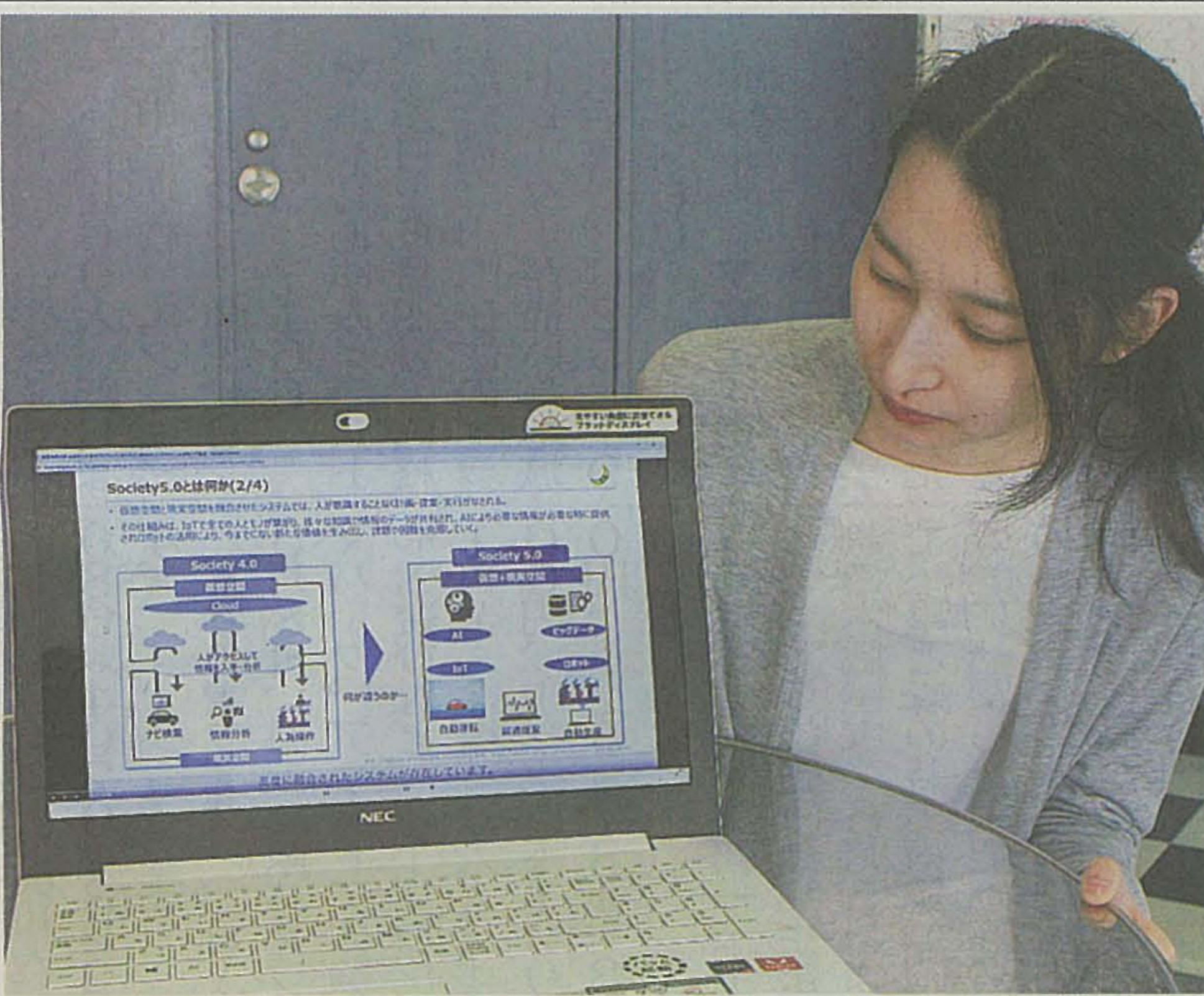
決めた。

産大が導入するプログラムは基礎的知識・技術を学ぶ「入門」、AI言語などの技術を養う「アプリケーションデザイン」、データ解析などを学び、ビジネス現場

で生かすことを目指す「データサイエンス」の3科目。プログラミングだけではなく、AIの活用事例を学ぶなど技術への理解を深めることを取り入れているのが特色だ。全学年対象の選

択科目で、学生は半期1科目を履修すると2単位が得られる。
1コマ100分程度のオンライン授業で、学生は好きな時間に視聴することができる。アプリを作ったり、技術を活用して問題解析を

したりする演習がある。産大で導入を指揮した経済学部阿部雅明教授(51)は「地方創生にもAIの活用は必要になる。学生に技術を養ってもらい、地域を活性化する人材を育てたい」と話している。



新潟産業大が導入したAI活用人材育成プログラムで学ぶ学生＝柏崎市軽井川の同大

2022年4月22日（金）新潟日報 17面

新潟日報社 転載許可済